一般演題抄録作成・送付用テンプレート【事務局受理：2015 年　　月　　日／整理番号：　　】

表　題（和文）	重度慢性歯周炎患者にインプラント治療を行い,再評価の重要性を再認識した 1 症例
副　題（和文）	
演者名（和文）	○江俣壮一
所　属（和文）	東京形成歯科研究会
表　題（英文）	the important of re－evaluation in case report of Implant－therapy for severe periodontal disease
副　題（英文）	－　　－
演者名（英文）	○ SOICHI Emata
所　属（英文）	Tokyo Plastic Dental Society

Ⅰ目的：　重度歯周炎の患者にインプラント治療は有効であるが、治療計画では診査後確定的な治療計画の立案は難しく,とくに予後不安な歯は初診時の診査から抜歯か保存か判断するのは難しい.今回再評価することによって治療計画が変更されていったがSPTにはいり 6 年良好に経過している症例を報告する.

Ⅱ材料および方法（又は症例の概要）：初診は 2005 年 10 月.患者は49歳女性.　主訴は歯がぐらぐらして歯茎から出血するので来院した.　非喫煙者で歯科的既往歴は1年前から他の医院にて通院していたが良くならないので転院.口腔内所見は軽度の発赤,腫脹がみとめられた.エックス線所見は 17,37,47,は根尖にまで及ぶ骨吸収が認められた.歯周基本治療をおこない再評価では 16,11,21,34,35,　では 6 ㎜以上のPPDを認めたためエムドゲインを用いた再生療法の適応症と診断した. 36, 37 にOSEEOTITE　Implant直径 4mm×長さ 10mm のインプラントを 35Nで埋入し完全縫合した.17 は歯槽頂から上顎洞底挙上術をおこないOSEEOTITE　Implant直径 4mm×長さ 11,5mm インプラント埋入をおこなった.47 はOSEEOTITE　Implant直径 4mm×長さ 10mm ンプラント埋入をおこなった.その後咬合力のコントロール,最終補綴も視野に入れプロビジョナルレストレーションによる,顎位の確認、歯周組織の評価おこない陶材焼付け鋳造冠の上部構造を仮着セメントにて装着をした.

Ⅲ結果（又は経過）：　最終補綴後から現在にかけて 3 カ月に 1 回のSPTをおこなっている.X線所見から再生治療を施した歯牙は骨の再生、歯槽硬線の出現が確認できる.またインプラント部位には顕著な骨吸収やインプラント周囲炎等の異常所見は確認されず,現在SPTから 6 年経過しているが患者のプラークコントロールも良好で歯周病の再発もなく良好に経過してる.

Ⅳ考察および結論：**重度**歯周炎の患者においてのインプラント治療には必ず再評価というステップがあり,再評価しながら治療計画が徐々に決まっていき,とくに複雑なケースは最初からすべて決められることはなく,必要な処置をおこないその組織の反応,患者の反応をみて変化した現状を把握し最終的なゴールに向かっていった.そのためには再評価を確実におこなうことが重要である.

一般演題抄録作成・送付用テンプレート【事務局受理：2015 年　　月　　日／整理番号：　　】

【注】抄録本文の枠内は１行 40 文字×25 行です．本文の入力文字数は必ず 17 行以上，25 行以内として下さい（約 700 字～1,000 文字以内）．また，枠内の書式は変更しないで下さい．